

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

【類型Ⅱ】

1. 実践校について

実践校名	(ほっかいどうのぼりべつせいりょうこうとうがっこう) 北海道登別青嶺高等学校		
学科名	児童・生徒数	学級数	
全日制課程普通科	346	10	

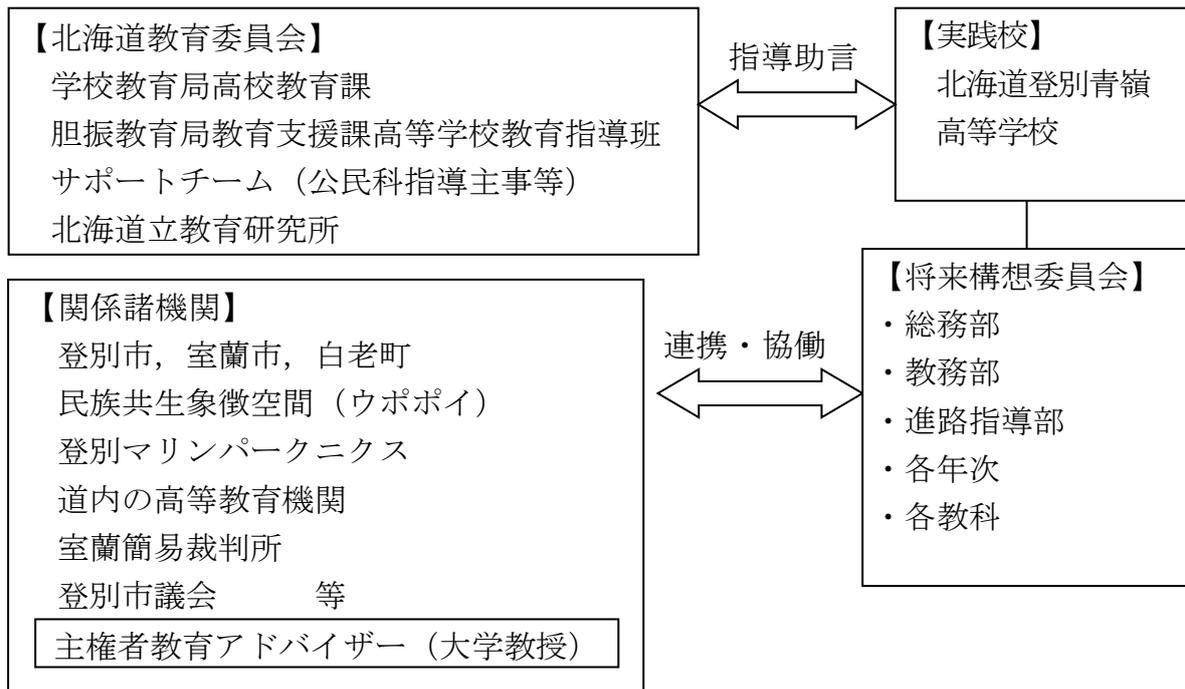
2. 実践研究の対象

学科名	学年	生徒数	学級数
全日制課程普通科	1	110	3
	2	113	3
	3	123	4

3. 実践研究の実施経過

月	実施内容等	
	公民科（「公共」）	その他
4	大項目 A	地域研修（総合的な探究の時間）
5		「じもと学Ⅰ」ワークショップの開始（～12月随時）
6	大項目 B	業界調べ，業界講話（総合的な探究の時間）
7・8	研究授業「主として法に関わる事項」	生活安全（消費者）教室（家庭）
9	模擬選挙，教科内研修	前期のまとめ
10	研究授業「主として経済に関わる事項」	「じもと学Ⅰ」成果発表会①
11		薬物乱用防止教室，就業体験
12	研究授業「主として経済に関わる事項」	主権者教育の全体計画の改善（将来構想委員会で検討）
1	事業実施後意識調査の実施・分析	
2	教科内研修会	校内研修会，「じもと学Ⅰ」成果発表会②，交通安全講話（保健），後期のまとめ
3	活動集録作成，報告書の作成・提出	

4. 実践研究の実施体制



5. 教育委員会等として取り組んだ内容

(1) サポートチームによる指導助言及び支援

- ・道教委の公民科担当指導主事を中心としたサポートチーム（以下、「サポートチーム」という。）が、実践校への教科指導訪問等の機会を活用し、本研究の進捗状況について把握するとともに、研究推進上の課題を整理し、その解決に向けた具体的な取組等について、指導助言した。
- ・「公共」の実施を見据えた単元計画を実践校と連携して作成するとともに、その計画に基づき行われた1年次「公共」における指導と評価の一体化について指導助言した。
- ・実践校で令和4年度から実施している、学校設定科目「じもと学」の進捗状況について把握するとともに、実践上の課題解決に向けた方策等について指導助言した。

(2) 『高等学校教育課程編成・実施の手引』（道教委作成）への掲載

- ・本研究の取組内容及び成果等について、道教委の『高等学校教育課程編成・実施の手引』（以下、「手引」という。）に掲載し、各学校に周知した。
- ・手引を基に、「北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会」（公民部会，11月）等において、本研究を主権者教育の実践事例として紹介し、全道的な主権者教育の推進を図った。

(3) 指導主事の学校教育指導による成果の普及

- ・指導主事による学校指導訪問，各種研修等において，本研究を主権者教育の実践事例として紹介し，成果を普及した。

(4) 道教委のウェブページに掲載

- ・手引を道教委高校教育課のウェブページに掲載し，本研究の取組内容及び成果等について全道及び全国に周知した。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

【類型Ⅱ】

実践校名：北海道登別青嶺高等学校（普通科）

研究主題

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発～公民科及び学校設定科目「じもと学」を中核とする、地域と連携した主権者教育の実践～

主題設定の理由

ア 本校の現状

本校は、「至誠」、「錬磨」、「自律」の校訓のもと、登別市で唯一の全日制普通科の高等学校として、地域に根ざし信頼される学校づくりに努めており、生徒の多様な進路実現を目指し、生徒一人一人に社会人として必要な総合的な人間性等の涵養と学力向上を柱にした教育活動を展開している。また、本校では、主権者教育の充実にも取り組んでおり、生徒会活動において、生徒会役員選挙の際に各ホームルームで選挙に関するリーフレットを作成して配布するなど、生徒の政治的教養を育むとともに、主権者として求められる資質・能力を育む教育活動に積極的に取り組んでいる。

令和3年度からは、普通科単位制高校として、生徒の多様なニーズに対応した選択科目を設置した。令和4年度には、2・3年次の学校設定科目「じもと学」を開設し、教科等横断的な探究学習や、コミュニティ・スクールを活用して地域の関係諸機関と連携した体験学習を実施することとしている。

イ 本校の課題

本校の生徒は、教科や特別活動等において与えられる課題等については、積極的に取り組むことができるが、一方で、現実の社会に主体的に関わろうとする姿勢や態度、課題解決のために必要な公正な判断力等が十分に身に付いていない者も見られ、主権者としての資質・能力の習得に課題が見られる。そのため、現実の社会を見据え、自ら地域の課題を追究したり、他者と協働して解決に向け構想を立て実行したりするなどの学習活動を通じて、主権者として必要な主体的に社会に参画するための資質・能力を育成する必要がある。

ウ 本研究の方向性及び学習プログラムの概要

本研究では、公民科や家庭科、学校設定科目「じもと学」及び特別活動等において、生徒が現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むこととする。その際、国際性豊かで歴史の深い観光都市である登別市をはじめとする地域の恵まれた環境を生かして探究学習を設定し、地域

の人材や関係諸機関と連携しながら研究を進めることとする。

また、本研究の内容を整理するため、生徒の高校3年間及び将来を見据え、育成を目指す資質・能力をベースに整理した、教科等横断的な学習プログラム（主権者教育の全体計画）を作成する。併せて、新科目「公共」の単元計画を開発し、主権者教育の中核となる公民科における学習指導の改善・充実を図る。

エ 研究を通じて実現を目指す生徒の姿

現実の社会を見据え、自ら地域の課題を追究したり、他者と協働して解決に向け構想を立て実行したりするなど、主権者として必要な主体的に社会に参画するための資質・能力を身に付けた生徒の育成を目指すこととする。

オ 学習プログラムに期待される効果

道内の高等学校においては、公民科の学習はもとより、模擬裁判や模擬議会等の実践的な学習により、主権者教育の充実に取り組む学校が増えてきてはいるものの、系統的・継続的な主権者教育が確立されていない現状が見られる。そこで、本研究において、学習プログラム（主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画を開発することにより、本プログラムを参考に、各学校において生徒や地域の実態に応じた全体計画等や「公共」の単元計画を作成するなどして、系統的・継続的な主権者教育が行われ、生徒の主権者としての資質・能力が一層育まれることが期待される。

概要

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発。

学習プログラムの主な内容

<公民科「公共」>

① 法や規範の意義及び役割，司法参加の意義【公民科・5時間】

少年法の改正，特に特定少年の実名報道について，弁護士とともに考える授業を通じて多面的・多角的に物事を捉える視点を養い，その視点を活用しながら模擬裁判で裁判員としての公正・公平な判断について考察・表現する。

② 政治参加と公正な世論の形成，地方自治【公民科・4時間】

地方自治の役割や条例の立案を体験する活動を通じて，多面的・多角的に物事を捉える視点を養い，その視点を活用しながら自身の住む地域の課題解決に向けた方策について考察・表現する。

③ 雇用と労働問題，職業選択【公民科・4時間】

地域経済分析システム「RESAS」を活用し，登別市の労働力不足についての情報を読み取り，労働力不足を改善するための取組を調査・評価する活動を通じて，地域の産業の活性化に向けた方策について考察・表現する。

④ 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化【公民科・2時間】

社会保障関連費の内訳について調査する活動を通じて社会保障の実態を理解すると

ともに、高齢者の不自由さや介助者の苦勞を体験する実践的な活動を通して、社会保障の充実・安定化に向けた方策について考察・表現する。

⑤ 持続可能な社会づくりの主体となる私たち【公民科・8時間】

「2050年に日本の経済を担うのはどのような産業か」という問いをもとに、生徒自ら産業や業界の仮説を立て、実態等を調査するとともに、これまでの学習で身に付けた見方・考え方を働かせ、自己の仮説を評価してまとめ・表現する。

<学校設定科目「じもと学Ⅰ」>

① じもとワークⅠ「市役所ワークショップ」【じもと学Ⅰ，8時間】

登別市役所の方をゲストティーチャーとして招き、講義とワークショップを実施し、登別市の現状と課題について広く知り、生徒自身が課題を見出すきっかけをつくる。

- ・「市役所本庁舎の建設～幌別地区のまちづくり」，「環境」，「登別ブランド」
- ・AR(拡張現実)による津波浸水体験の「防災教室」，「避難所運営ゲーム(DOはぐ)」

② じもとワークⅡ「じもとOJT」【じもと学Ⅰ，6時間】

登別市の地元企業5社で見学や実習を実施し、地域産業について理解を深める。

- ・体験学習，工場見学，卒業生との交流
- ・菓子等の製造体験と商品開発

③ じもとワークⅢ「登別温泉街巡検・登別市議会傍聴」【じもと学Ⅰ，10時間】

登別温泉街への巡検で、街の活性化に必要なコトとモノについて探究し、コロナ禍で減少した外国人観光客を取り戻すための観光協会の取組に関わり、地域資源について理解を深める。昨年度の模擬議会で訪れた登別市議会定例会に参加し、議員による一般質問を傍聴して、まちの現状と課題，市議の役割等について学ぶ。

- ・登別温泉街への巡検，登別観光協会による講義，外国人向け（主に台湾）のギフトボックスとメッセージカードの作成補助
- ・令和4年度登別市議会定例会12月8日一般質問傍聴

④ じもとの自然「キウシト湿原巡検」【じもと学Ⅰ，7時間】

本校に隣接する「キウシト湿原」でのフィールドワークや、NPO法人による講義やガイドツアー，湿原の維持・管理活動に参加し、地域の環境保護の取組について理解を深める。

- ・フィールドワーク，コケの定植，外来種駆除，苔テラリウム作り

⑤ じもと学Ⅰまとめ「ポスターセッション」【じもと学Ⅰ，9時間】

これまでの探究学習をもとに、地域課題の課題解決のための方策について考察し、その成果をポスターにまとめる。さらに、他の生徒や教師，専門家等と議論しながら、より効果的な課題解決策について考察・構想する。

- ・市役所や旅館ホテルへの電話やメールによるヒアリング調査，インターネット等を通じた情報収集とデータ分析
- ・成果発表会（市役所や連携した企業及び団体も参加）

学習プログラムの成果の概要

- 弁護士や市役所，高齢者施設など関係諸機関との連携を通じて、より具体的な実社会の課題等の情報を得ることができたことで、生徒の興味・関心が高まり、自ら主体

的に考える姿勢・態度の育成につながった。

- Google Classroom や Forms, Slides や Jamboard など, 授業形態や学習活動に合わせて ICT を活用することにより, 生徒自ら疑問について調べるなど, 主体的に学習に取り組む姿勢・態度の育成につながった。
- 模擬裁判や, 条例案の作成, 高齢者や介助者としての体験など, 様々な立場から考えたり, 体験したりする活動により, 多面的・多角的に物事を捉える力を身に付けることができた。
- 地域課題を取り上げることで, 生徒が, 現実社会の課題を自分事として捉える姿勢を身に付けることができた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（詳細）

【類型Ⅱ】

実践校名：北海道登別青嶺高等学校(普通科)

＜公民科・公共＞

学習活動① 法や規範の意義及び役割, 司法参加の意義

- 法や規範の意義及び役割, 司法参加の意義に係る単元計画を作成し, これに基づく研究授業を実施した。裁判員裁判を想定し, NHK for School の昔話法廷を題材にした模擬裁判を単元の始めと最後に行った(右の画像)。始めの模擬裁判は, 生徒自身が主観的な判断をしてしまうことを想定して行った。その後, 法の意義や役割, 司法の学習を通じて, 公正・公平な判断をするための視点を身に付け, 単元の最後に再度同じ模擬裁判を行い, 被害者や被疑者の立場, 社会的な影響など, 多面的・多角的な視点で事件を捉えることができているかを評価した。



- 少年法の改正, 特に, 特定少年の実名報道の是非について考察するため, 北海道みらい法律事務所の弁護士に協力いただき研究授業を実施した。様々な架空の事件を題材にし, 立場や罪の重さなど多面的・多角的な視点で特定少年の実名報道の是非について考察した(右の画像)。



弁護士の説明は, 被害者側の事情に考慮することが主な内容だったため, 後日の授業において, 特定少年の実名報道に肯定的な意見をもつ人々の記事をもとに考察する学習を行った。

専門家や関係諸機関がもつ識見は, 生徒にとって具体的で分かりやすいものであるが, 一義的な意見として生徒に伝わることのないよう配慮した。

学習活動② 政治参加と公正な世論の形成，地方自治

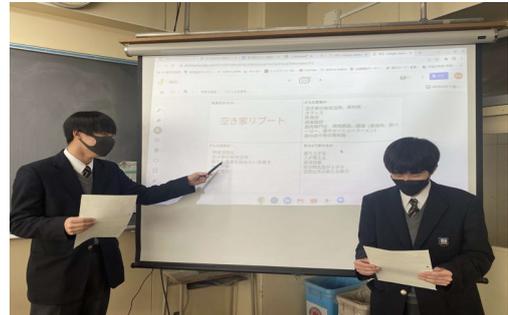
- 政治参加と公正な世論の形成，地方自治に係る単元計画を作成し，これに基づく研究授業を実施した。法務省作成の「未来を切り拓く法教育」の中から「海水浴場の利用ルールを作ろう」（左下の画像）を題材に，ある町の海水浴場が抱える問題を解決するための条例を作る学習を実施した。条例作成のために，住民や海水浴場で店舗を営む人，利用客やホテル経営者など様々な立場から考え，多面的・多角的に考察し合意形成するまでの流れを体験した（右下の画像）。

問題点	条例案
①騒音対策について	警備員を配置して騒音してる人を注意させる 音楽をかけていいのは夜の21時まで
②ビーチでの飲酒・喫煙について	空き地側の方に喫煙所を設ける 喫煙所以外で喫煙したら罰金3万円 未成年が喫煙した場合は罰金5万円
③水上バイクについて	海水浴場内やサンゴ礁の上を通行せずに，空き地側の海を利用する。ルールを破った場合，罰金5000円を支払う。 ルールを破った上で接触事故が起きてても責任は取らない。
④ごみ対策	ゴミ箱を色んな所に設置する。 警備員がポイ捨てを見かけたら罰金20000円を支払う。



- 登別市で生活する上での課題を題材に，課題を解決するための学習を実施した。登別市の課題について，Jamboard を用いてグループで共有するとともに課題を分類し（左下の画像），その中からグループごとに探究する課題を設定した。その上で他市町村での事例を調査・分析し，登別で応用可能な事例を基に方策を検討し，グループで発表した（右下の画像）。

<p>政策のタイトル</p> <h3>空き家リポート</h3>	<p>どんな政策か</p> <p>空き家の有効活用、再利用 オフィス 飲食店 娯楽施設 鹿肉専門店 現地調達、調理（鹿焼肉、鹿バーガー、鹿チャーシューラーメン） 鹿の皮や角の再利用</p>
<p>どんな目的か</p> <p>地域活性化 空き家の有効活用 新たな事業を始めたい若者をサポート 人口増加</p>	<p>町はどう変わるか</p> <p>盛り上がる 人が増える 経済効果 街の知名度が上がる 温泉以外の新たな魅力</p>



- 参議院議員選挙の公示日に合わせて，選挙の意義やルールについてまとめた資料を各担任が説明し，全クラスで主権者として必要な視点や姿勢を身に付けるための時間を設けた。また，生徒会役員選挙において，実際の選挙で使用する投票箱や記載台（左下の画像）等を登別市選挙管理委員会から借用して，実際の選挙に近い形式で投票を行った。また，不在投票も併せて実施し，就職活動等で不在となる生徒が活用した（右下の画像）。



学習活動③ 雇用と労働問題, 職業選択

- 雇用と労働問題, 職業選択に係る単元計画を作成し, これに基づく研究授業を実施した。地域経済分析システム「RESAS」を活用し(下の画像), 北海道の産業ごとの企業数の減少を読み取り, なぜ企業数が減少しているか仮説を立てた。大方が人口減少・少子高齢化が要因であるとの仮説を立てたため, さらに, 日本における人口減少・少子高齢化の展望についてのグラフを読み取り, 人口が減少を続ける日本の未来を踏まえ, 「2050年に日本の経済を担うのはどのような産業か」という問いについて, 仮説を立てた。



- その後, 問い(「2050年に日本の経済を担うのはどのような産業か」)の考察に必要な情報を得るため, 市役所から5名の職員に協力いただき研究授業を実施した。

地域経済分析システム「RESAS」を活用し(左下の画像), 登別市の産業ごとの従業員数・売上の情報を読み取り, 技術革新などの工夫によって売上を増加させている企業の事例を考察した。さらにその取組を登別市に導入することにより, 「登別らしさが生まれるか」, その取組は「グローバル化と関わりがあるか」, 「持続可能な社会に貢献しているか」などの視点からグループで評価することで, 今後の日本や地域経済を支える産業・企業とはどのようなものか再検討した。また, 生徒同士の協議の様子を市役所職員の方々に観察していただくとともに, 必要に応じて助言していただいた。

授業の最後に, 生徒が考察した内容等について, 市役所職員の方々から講評をいただいた(右下の画像)。



学習活動④ 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化

- 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化に係る単元計画を作成し、これに基づく研究授業を実施した。国家財政における社会保障関係費の内訳の資料を読み取り、年金や医療などの金額や割合を理解した上で、生徒が率直な感想を記入した。その上で社会保障関係費の推移のグラフを読み取り、「なぜ社会保障関係費が増加しているか」という問いについて仮説を立て考察・表現した。
- 高齢者への社会保障の充実・安定化の必要性やその課題を理解するために、市役所職員や高齢者施設の職員に協力いただき体験的な授業を実施した。まず、市役所職員から登別市の少子高齢化やその展望についての講義を受け（左下の画像）、その後、車椅子を用いて、体が不自由な方の立場やそれを介助する方の立場の両方を体験した（右下の画像）。

講義では、安易に社会保障の質を落としたり、支出を抑えたりすることができないこと、体験的な学習では、今後の社会は介助を必要とする人がさらに増えていくことについて学んだ。



学習活動⑤ 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

- 持続可能な社会づくりの主体となる私たちに係る単元計画を作成し、これに基づく探究学習を実施した。全体の問いである「2050年に日本の経済を担うのはどのような産業か」について考えるために、関心のある産業・業界を選択し、選んだ産業・業界が少子高齢化が進む中においても利益を伸ばしていくことができるか仮説を立てた。

さらに、選んだ産業・業界の市場規模や課題等の実態について調査し、「労働力不足を補えるか」、「独自性があるか」、「グローバル化と関わりがあるか」、「持続可能な社会に貢献しているか」の観点で考察した。

以上の考察をまとめたスライドを作成し、グループ内で発表を行った。

◇「仮説の立案」

これまでに習った内容やこれからの日本のことを考慮し、

テーマ	自身の関心のある産業・業界は、2050年の日本を担うことはできるか
仮説	
理由	

◇「産業・業界（企業）の分析」

これまで調べてきた産業・業界（企業）について、以下の項目に沿って分析をしてみましょう。

【産業・業界名】「改めて産業・業界名を記入しよう」	
労働力不足	「労働力不足を補う技術の導入はありますか」
独自性	「他業界や他国にはない技術や強みなど、何か独自性がありますか」
グローバル化	「グローバル化に対応できていますか」
持続可能な社会	「持続可能な社会に貢献できていますか」

◇「企業調査③」

その産業・業界の中から関心の持った企業を1つ選択し、以下の項目について調べましょう。

【企業名】		
【従業員数・年取など】	【商品・サービス】	【ターゲット】
【売上・利益】	【強み】	【最新技術】

◇「結論」

これまで調べてきた産業・業界（企業）について、将来性があるか、売上・利益を伸ばすことが出来るか、自身の考察を書きましょう。

結論	「調べてきた産業・業界（企業）について、将来性がありますか」
理由	「なぜ思いましたか」
改善	「調べてきた産業・業界がよりよくなるために、どんなことが必要ですか」

<総探, 学校設定科目「じもと学Ⅰ」>

学習活動① じもとワークⅠ「市役所ワークショップ」

- 登別市の現状と課題について理解を深め、生徒自身が課題を見出すことを目的に、各学習で登別市役所の職員をゲストティーチャーとして招き、講義とワークショップを実施した。「市役所本庁舎の建設～幌別地区のまちづくり」については、市役所新庁舎の機能を考察したり（左下の画像）、旧庁舎跡地の利活用からまちづくりを検討したりした（右下の画像）。



- 防災の学習において、登別市役所防災担当者と NHK の職員に来校していただき、AR(拡張現実)による津波浸水体験の防災教室を実施し（左下の画像）、カードを用いて冬季の避難所運営における課題解決策を検討する「避難所運営ゲーム（D0 はぐ）」に取り組んだ（右下の画像）。

学習のスタート時に年間計画を作成し、担当者との事前打ち合わせを対面やメール等で日常的に行った。



学習活動② じもとワークⅡ「じもとOJT」

- 地元企業や産業の実情について理解を深めるため、登別市の地元企業（民間事業者）5社で見学や実習を実施した。登別市内にあるガス機器製造業，機械器具設置工事業，窯業・土石製品製造業，廃棄物処理業，菓子製造業に携わる企業のうち2社を訪問し，地元企業が地域において果たす役割やその課題について多面的・多角的に考察した。
複数の企業において，本校卒業生との交流の時間を設定していただいた。また，老舗菓子メーカーでは，製造体験（左下の画像）だけではなく，生徒が考案したケーキを商品化する機会をつくっていただいた（右下の画像）。



学習活動③ じもとワークⅢ「登別温泉街巡検・登別市議会傍聴」

- 登別温泉街を巡検し，案内掲示，道路状況等を実地調査したり，店舗へのヒアリング調査を行ったりしながら，温泉街の現状を把握した（左下の画像）。その後，登別観光協会から，地域資源を活用した観光客誘致に関する講義を受け，台湾などからの外国人向けのギフトボックスのデザインを選定や，オリジナル・メッセージカードの作成（右下の画像）に関わった。



- 昨年度に引き続き模擬議会を実施し，今年度は，登別市議会の定例会に参加し，議員による一般質問を傍聴した。

学習活動④ じもとの自然「キウシト湿原」

- 生物多様性の観点から重要度の高い湿地（略称「重要湿地」）である「キウシト湿原」でのフィールドワークを行った。

NPO法人のスタッフによる講義（左下の画像）を受けた後、レッドリストに選定されている絶滅危惧種などの観察や、ガイドツアー、苔テラリウム作り（右下の画像）、湿原の維持・管理（外来種の駆除）等を体験した。



学習活動⑤ 「じもと学Ⅰ」まとめ（成果物作成）「ポスターセッション」

- 1年間のまとめとして、これまでの講義・見学・体験等を通じて考察したことや、次年度探究したいテーマについてポスターを作成した。
- 作成したポスターを基に、これまでの学習に携わっていただいた市役所職員や企業等の方々に参加していただき、ポスターセッションを実施した。

成 果

(児童生徒の変容等)

○ 本研究に関するアンケート（生徒の意識調査）を次の項目で行った。

【質問項目一覧】

- 1 相手の考えをよく聞いて、考えている。
- 2 自分の意見を相手に伝えることができる。
- 3 うまくいか分らないことにも意欲的に取り組んでいる。
- 4 テレビや新聞、インターネットなどで、政治や社会などに関するニュースを見ている（政治や社会などに関心がある）。
- 5 疑問に思ったことは、インターネット等を使って検索するなどして、自分で調べている。
- 6 他者と協同して、何かを考え解決することは大切だと思う。
- 7 ボランティアなど社会のために役立つことをしているとき充実していると感じる。
- 8 私の社会参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれないと思う。
- 9 政治に参加することは大切だと思う。
- 10 選挙で投票することは大切だと思う。
- 11 自分の国や地域のために役立つと思うようなことをしたいと思う。
- 12 社会をよりよくするため社会における問題の解決に関与したいと思う。
- 13 将来、政策決定など、積極的に政治に参加したいと思う。
- 14 選挙権が与えられたら投票に行こうと思うと思う。
- 15 私個人の力では政府の決定に影響を与えられないと思う。
- 16 今が楽しければよいと思う。
- 17 自分が今、住んでいる地域（市町村）が好き。
- 18 公民科や家庭科の授業などで学習した現実の社会に関することは、将来の自分に役立つと思う。
- 19 学校の授業で、課題などについて生徒同士で話し合う機会がある。
- 20 学校の授業で、生徒同士で議論したことなどを発表する機会がある。

○ 事前・事後アンケート結果（意識調査）を分析すると、次の結果が得られた。

質問項目	5月	2月
5 疑問に思ったことは、インターネット等を使って検索するなどして、自分で調べている。	68.7%	77.8%
18 公民科や家庭科の授業などで学習した現実の社会に関することは、将来の自分の役に立つ。	77.8%	88.9%
9 政治に参加することは大切だと思う。	75.8%	88.8%

5月の結果では、「5疑問に思ったことは、インターネット等を使って検索するなどして、自分で調べている。」という質問について、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒が68.7%であった一方で、2月には77.8%に上昇、さらに「18 公民科や家庭科の授業などで学習した現実の社会に関することは、将来の自分に役立つと思う。」という質問について、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒が77.8%であった一方で、2月には88.9%に上昇し、本プログラムにおける授業を通じて、自身で疑問を解決するためにICTを積極的に活用する姿勢や、実社会について学ぶ意義を一層見出していることが分かる。

また、5月の結果では、「9 政治に参加することは大切だと思う。」という質問について、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒が75.8%であった一方で、2月には88.8%に上昇しており、本研究における学習プログラムを通じて、政治参加への意識や主権者としての自覚を高めたことが分かる。

- 法や規範の意義及び役割，司法参加の意義の授業における二度の模擬裁判の記述を比較してみると，「さるかに合戦」を題材にした昔話法廷の判決について，単元の始めの学習では，どちらか一方の主張に共感して判決を記述した生徒が多かったが，単元の最後には，ほとんどの生徒が，被害者や被疑者の立場，社会的な影響など，多面的・多角的な視点から，公正・公平に判断しようとしている記述が見られた。
また，少年法改正に係る特定少年の実名報道を取り上げた学習においても同様に，多面的・多角的な視点から捉えて賛成・反対の意見を述べている記述や，想定した事例ごとに判断する基準を提案している記述も見られた。
- 政治参加と公正な世論の形成，地方自治における「海水浴場の利用ルールを作ろう」をテーマとした学習では，条例案として，人の行動を規制するための法だけでなく，人の行動を促進するための法についても考え，提案している記述が見られた。また，生徒同士の協議では，ある提案について，別の立場の人にとっては，それが不利益になるのではないかという意見を踏まえ，どうすれば，より多くの人の不利益を被ることにならないかなど，具体的に議論する姿が見られた。
また，地域課題を解決するための政策の記述においては，あるグループで，一つの政策を基に，複数の課題解決に取り組むことができることを発見し，そこからさらに多面的・多角的な視点で考察し，具体的な提案を行う様子も見られた。
- 地域の産業構造の変化を題材にした学習における問い（「2050年に日本の経済を担うのはどのような産業か」）に対する仮説を比較してみると，単元の始めでは主観に基づく仮説が多かったものの，調査を通じて得られた事実やデータ，協議を通じて考察した「技術革新」，「登別らしさが生まれるか」，「グローバル化と関わりがあるか」，「持続可能な社会に貢献しているか」などの観点から仮説を立て直す生徒の姿が見られた。
また，日本の抱える課題と地域を担う側の視点を結び付けて考察している生徒や，協議の中で明確となっていなかった「登別らしさ」とは何かについて，改めて生徒同士で話し合っている姿も見られた。
- 指導と評価の一体化に向け，単元の指導計画や学習指導案を検討した際に，「単元を貫く問い」を適切に設定することで，その単元で生徒に身に付けさせたい資質や能力を明確化することができた。また，評価規準についても明確に設定することができた。
- じもとワークⅡ「じもとOJT」において，生徒が考案したケーキが商品化され，SNSを活用した広報活動によって，地域や北海道内の方々から，多大な好評を得るなど，生徒が地域おこしの可能性を実感することができた。
- じもとワークⅢ「登別市議会傍聴」において，実際の市議会を傍聴したことで，地方自治の在り方や登別市の現状の課題を知ることができ，今後の探究活動のための視点や解決策の視点を具体化することができた。
- 「ポスターセッション」に向けた成果物作成の際，生徒自ら電話やメールなどで関係諸機関に問い合わせたり，インターネット等から情報収集したデータ等を分析し，他地域と比較したりするなど，主体的に探究し，地域課題を多面的・多角的に探究す

ることができた。

また、ポスターセッションでは、参加した市役所職員や企業等の方々から適切な助言をいただいたことにより、次年度の「じもと学Ⅱ」で探究したいテーマを掘り下げることができた。

(取組の工夫)

- 研究主題の実現に向け、サポートチームと十分に連携を図りながら実践した。また、登別市や選挙管理委員会、札幌地方裁判所、弁護士事務所など、外部人材を活用した学習内容を実践するための校内体制を構築した。
- 「単元を貫く問い」を明確に設定した探究的な学習活動を重視するとともに、問いの答えを予想する活動から、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の流れを意識することで、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫した。
- 「地域」という視点を軸とした探究的な学習の研究により、本研究を通じて目指す生徒の姿である「自ら地域の課題を追究したり、他者と協働して解決に向け構想を立て実行したりするなど、主権者として必要な主体的に社会に参画するための資質・能力を身に付けた生徒」の育成に向けた学習プログラムを構築することができた。

(他地域でも参考となると考えられる点)

- 「問い」を基に探究する学習の充実
※単元計画の開発、学校設定科目の学習内容の検討など。
- 学習活動に応じた ICT の効果的な活用
※学習内容の精選、生徒の思考を瞬時に可視化、学習の成果を捉えることなど。
- 外部人材を招いた実践的な学習の充実
※地域探究、模擬裁判、模擬議会等の地域や関係諸機関との協働による学びなど。

課題

- ポートフォリオによる評価の改善・充実
※Google フォーム等を一層活用して継続的な評価を行い、評価の客観性・妥当性を高める。
- 総合的な探究の時間を中核とし各教科等が連携した教科等横断的な学習の充実
※教科等横断的な学習の充実に向けた校内研修等を実施する。